



— 第45回 —

B-1 ボランティア キャンピングカーで お手伝い

ひろた なおき
広田 直喜 さん

MEMO

平成27年10月3・4日に開催されたB-1 グランプリ in十和田は、延べ5,530人のボランティアが活躍。大会成功の大きな原動力となりました。それぞれが思いを抱いて活動し、「一人一人が市の誇り」と小山田市長は称えます。

ボランティアの一人、広田直喜さんは十和田市出身。また急行運送勤務。夫人と仲間を誘い、趣味を生かしたボランティア活動を展開した「市の誇り」の一人です。

「授乳所が、ただプレハブを置いてだけで何の配慮もなかった」
そんな、過去のB-1大会について書かれたブログを見た広田さん。「自分のキャンピングカーが役立つかもしれない」と、仲間1組を誘い、それぞれのキャンピングカーを授乳所として提供。2日間ボランティアとして従事しました。

「車には暖房やオルゴールのBGMをかけたがり、外にはひさしを延ばしたり、あれこれ考えて準備しました。プライベートに配慮して1組ずつの利用にしましたが、いざ始まったらずっと人が多く、2組ずつ入ってもらいました。それでも、皆さん『使いやすいかった』と声を掛けてくれて」と、笑顔で振り返ります。

15年以上前、友人と出掛けた大曲の花火大会で、キャンピングカーの1団が何不自由なく楽しんでいる様子に感嘆し、小さな中古を手に入れたのが、広田さんにとって初めてのキャンピングカー。以来、休日には完全自立型と称する愛車で宿の心配もなく思う所に出掛け、普段では出会うことができないようなさまざまな種類の仲間を得て、充実した時間を過ごしています。「県外のキャンピングカー仲間には、我が家の空き地を拠点にして十和田湖や美術館を堪能してもらっています。官庁街通りの散策が目当てという人もいます



自前のキャンピングカーで、スタッフとともにおもてなしをする広田さん夫妻。仲間の授乳所も大盛況でした。

よ。B-1では、情報発信やメディアへの露出を頑張って成功につながったと思います。今後は市でも効果的な宣伝に励んでほしい。みんなが十和田の魅力や底力を実感した、この経験を生かさないともったいない」と、提案します。

何でもいからボランティアをしようと思っていたと言う広田さんは、十和田西高校の1回生。後輩の活躍を意気を感じていました。そして実現したのが自分ならではの協力。

まちづくりへの意見を伺うと「誰もが動けるうちに、文化でも、スポーツでも、遠慮せずに好きなことを楽しんで、仲間づくりをすること」と話してくれました。

主体的で充実した一人一人の人生が、まちづくりの力になり、到達目標でもあるのかもしれない。

『ラヴィアンローズ！』
改めて、合言葉の意味に触れたような気がします。